

クラス番号	915	ゼミタイプ	サービスラーニング型（コミュニティ）
		担当教員名	原田正樹
テーマ	住民主体による地域福祉の推進のあり方ー社会福祉協議会の役割を中心にー		
ゼミナール概要			
目的、内容、方法等： このゼミでは「社会福祉協議会」で活動をしします。「社協」と言われています。社協は全国の市町村にあって、地域福祉を推進する大事な役割を果たしています。知多半島にある5市5町にもそれぞれ社協があります。ただしそれぞれの社協によって事業には特徴があります。それぞれ地域が違くと社協のあり方にも違いが出てきます。 共通しているのは、行政や関係団体、何よりも地域住民と協働して地域福祉を推進しようとしている点です。地域福祉とは、専門職だけが頑張って推進するものではありません。地域で暮らしている住民の一人ひとりが主体的に関与していくことが重要です。しかしながら、どこでも住民が主体的に動けるわけではありません。どういう条件が整えば、住民が主体的に地域福祉を推進していくことができるのか。それが明確になってくれば、さまざまな支援のプログラムが考えられます。 将来、「地域福祉」の分野で働いてみたいと思っている人たちにとって、ここ知多半島 で学ぶことは、大きな力になるはずです。地域福祉とは、子どもも、障害のある人も、要介護の人たちも、生活に困窮している人たちも、誰もが地域住民の一人として、その地域で生活が営むことができるような地域を創出していく過程（プロセス）です。対象を、児童、障害、高齢といった縦割りの分野でとらえるのではなく、「誰もが共に」という視点から、地域共生社会（ノーマライゼーション）を考えていく視点が地域福祉には大切です。 授業計画： 前期は、社会福祉協議会について学習し、希望する市町社協を選択して、夏の活動にむけて事前学習をしていきます。自分たちで可能な地域貢献にむけた企画を考えていきます。 夏休みには 5 日間の活動を、実際に 社協で行います。 後期には報告会にむけてのリフレクションを行い、プレゼンの準備をしていきます。 この年間のプログラムにおける参加度（提出物、活動、発表など）について総合的な評価を行います。 こうした一連の学習プログラムは、「サービスラーニング」と呼ばれるアメリカで開発された教育メソッドです。日本福祉大学は日本で最初に福祉系大学でこのプログラムを取り入れてきました。将来、ソーシャルワーカーとして活躍していきたい人たちにとって、必要な基礎力を育むためには、最適な学習方法のひとつです。ぜひ挑戦してみてください。			
担当教員からのメッセージ			
地域福祉が大好きです。地域の美味しいもの、地域の美しい自然、地域の優しい人たち、そんな地域を大切にできる人たちに、地域福祉を学んでほしいと思っています。でも実際には、地域にはさまざまな課題があります。過疎化がすすみ、高齢者だけでは生活が成り立たなくなっているところ。障害のある人たちが差別され、排除されそうになっているところ。社会的な孤立がすすみ、寂しさが募るばかりのまちの姿もあります。 ゼミでは、そんな地域の光と影、さまざまな現実を受け止めながら、将来の地域福祉を考えていきたいと思います。今、日本で一番おもしろい知多半島の地域福祉を、みんなで一緒に学びましょう。			